

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：木文化再生 - 森林から都市へ ILAS Seminar :Conservation of Wooden Culture - From Forest to City	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Global Environmental Studies Professor,KOBAYASHI HIROHIDE Graduate School of Global Environmental Studies Associate Professor,OCHIAI CHIHO Field Science Education and Research Center Senior Lecturer,SAKANOUÉ NAO		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	8 (8)
Target year	1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Tue.5
Classroom	4th floor 453,Research Bldg. No3 (Main Campus)			Language of instruction	Japanese
Keyword	森林・里山・都市 / 木材資源 / 風土建築 / コミュニティ / 木造建築と災害				
[Overview and purpose of the course]					
わが国は優れた森林国でありながら国産木材の利活用は未だに高いとは言えない。一方、都市においても優れた木造文化を持ちながら、その継承が十分になされているとは言えない。このような状況下、木との関わりを私たちは今後どのように再構築していくべきだろうか。本講義では様々な事例を紹介しながら、森林や里山環境の在り方、日本の木材生産と森林の実態、地域に根ざした伝統木造建築（風土建築）の維持継承、都市木造建築の可能性、木造建築と災害などを概観し、日本の木文化再生について考える。					
[Course objectives]					
わが国の森林とそれを取り巻く現状を体系的に理解する。さらに、木材資源を利用して成立してきた様々な形態の木文化について学び、その再生に向けた方向性を森林、里山、都市、建築、地域コミュニティ、防災など多角的な視点から考察する。また野外実習を通して、学んだ内容と現場との関連について理解する。					
[Course schedule and contents]					
3名の教員が以下の講義を行う。 1. 日本の森林・里山の現状、日本の林業と今後（2回、坂野上） 2. 木文化としての建築（4回、小林） 3. 木造建築と災害（4回、落合） 4. フィードバック（1回、全教員） 以上の講義に加え上賀茂試験地での1日の野外実習（4回分、5月25日（土）を予定）を予定します。講義と実習で全15回分とします。 上賀茂試験地の往復交通費は自己負担とします（叡山電鉄 出町柳～京都清華大学 往復）。					
[Course requirements]					
None					
Continue to ILASセミナー：木文化再生 - 森林から都市へ(2)					

ILASセミナー : 木文化再生 - 森林から都市へ(2)

[Evaluation methods and policy]

平常点及び課題レポートによる評価。詳しくは授業中に説明する。

[Textbooks]

Instructed during class

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

講義受講後には必ず講義内容について総括して、メモを作成しておく必要がある。講義前には、それ以前に受けた講義に関するこれらのメモに必ず目を通しておくこと。

[Other information (office hours, etc.)]

文系学生の受講も歓迎する。
学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。